

【国語】 < 小学校 第6学年 >

1 結果のポイント

「話すこと・聞くこと」について、話し手が伝えようとしている内容の中心を正しく聞く力をみる問題など、ほとんどの問題の正答率が80%を上回っている。

話し手の工夫を考えながら聞く力をみる問題では、正答率が60%を下回っている。

「書くこと」について、事実と意見を区別して構成を整えて文にまとめる力をみる問題や、グラフをもとにして書く必要のある事柄を選び、自分の考えとその理由を区別して決められた字数で書く力をみる問題などでは、正答率が70%を下回っている。

「読むこと」について、文章の構成を考えながら読む力をみる問題や、登場人物の気持ちを想像しながら読む力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

「言語事項」について、敬語を正しく使うことができる力をみる問題や、漢字を正しく読む力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が60%を下回るものがある。

2 結果の分析

(1) 分かりやすい話し合いをするために、話し手がどんな工夫をしているかを考えながら聞く力をみる問題の例(「聞く能力」)

< 問題 > ㊦ の四

山田さんのすぐ後に発言した人の話し方のよい点を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

ア 自分の立場を後で示せるように、最初に具体例をあげて話している。

イ 自分の立場をはっきりさせ、前の人発言内容を受けて話している。

ウ 前の人意見に対して、分からないことを積極的に質問している。

エ 前の人意見に対して、感想を述べてから自分の意見を話している。

< 結果 > 正答率 58.9% (正答...イ)

< 分析 >

この設問は、複数の人々で話し合いをする時に話し手が工夫していることを聞く力をみる問題である。正答率は60%を下回っており、同領域の他の問題に比べて著しく低かった。誤答としては、「ア」や「エ」が多かった。その要因として、話し手として工夫するとよいことは理解しているものの、実際の話し合いの中でどんな工夫がされているかを聞く力は十分定着していないことが考えられる。今後、分かりやすい話し方の工夫等について、単元の中で意図的に取り上げるとともに、実際の話し合いの中で、聞き手として話し手の工夫や話し方のよさを聞き取るよう指導する必要がある。

(2) グラフをもとにして、書く必要のある事柄を選び、グラフから分かることとそれについての考えや理由を区別して書く力をみる問題の例(「書く能力」)

< 問題 > ㊦

次のグラフは全国の小学生にアンケートを行い、本を読む理由についての結果をまとめたものです。

このグラフから分かることと、それについてのあなたの考えやそのように考えた理由を、五行以上七行以内で分かりやすく書きましょう。

< 結果 > 正答率 61.1% (正答...略)

< 分析 >

この設問は、資料を読んで分かったことをもとに、自分の考えやその理由を決められた字数で書く力をみる問題である。正答率は60%程度であるが、昨年度の類似問題に比べると伸びはみられる。誤答としては、資料から分かることと自分の考えや理由のうち、どちらか片方だけが書

かれているものが多かった。その要因としては、資料から事実を取り出して書くことと、その事実についての自分の考えを書くことの区別ができていないことが考えられる。この傾向は、平成20年度全国学力・学習状況調査のB問題③「情報を読み取って書く〈図書館だより〉」でもみられた。今後、目的に応じて必要な情報を取り出して整理し、自分の考えや理由を明確にして書く指導を一層重視する必要がある。

(3) 登場人物の気持ちを想像しながら読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> ㉓の二

前から知りたくてたまらなかったこととありますが、それはどのような内容ですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

- ア 手品で消えたウサギはどこへ行ってしまったのだろう。
イ おじさんは、どうしてぼくをとなりにすわらせてくれたのだろう。
ウ 手品をするときに、どうしてわざと失敗するふりをするのだろう。
エ おじさんは、ぼくのお父さんとどんな話をしていたのだろう。

<結果> 正答率 96.9% (正答...ア)

<分析>

この設問は、登場人物の様子や行動を表す描写から想像を広げ、心情を読み取る力をみる問題である。正答率が90%を超えている。また、㉓の一「文章の構成を考えながら読む」問題の正答率も80%を超えており、文学的な文章において、表現や叙述と関係付けて人物の心情を読む力が身に付いていると言える。同領域の他の設問についても正答率は70%を超えているが、今後さらに、物語の展開や優れた表現の効果を考えて読む学習を工夫したり、単元の中で積極的に図書館を活用する活動を展開したりすることで、児童がさまざまな文学的な文章の登場人物の心情を読み取ることができるようにする必要がある。

(4) 5年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例(「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> ㉔の(1)(5)

(1) 平等に 分けても あまる。(5) ガラスが はそんした。

<結果> (1)正答率 50.7%(正答...余) (5)正答率 55.9%(正答...破損)

<分析>

この設問は、第5学年までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。(1)については平成17年度の同一問題の正答率61.8%と比較して、10%以上低くなっている。誤答としては、「除」など形の似ているものや、「残」など意味の似ているものが多かった。また、(5)についてはどちらかの文字だけが書けているものが多かった。これらの要因としては、児童の漢字の形、読み、意味の理解が十分でなく、文脈に沿って適切な漢字を使用することができていないためであると考えられる。漢字については、「読むこと」の問題の正答率が90%前後であることを考えると、「書くこと」に重点をおいて指導することが大切である。今後、学習した漢字を児童が目的をもって繰り返し練習することはもとより、授業で漢字を書く場や機会を多様に設定し、漢字を実際に使うことができるようにする指導の工夫が必要である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

話の内容と同時に分かりやすい話し合いを工夫する学習活動の位置付けを!

- ・「話すこと・聞くこと」については、話し合いの中で話し手の意図や話し方の工夫を考えながら聞く力を高められるようにすることが重要である。そのためには、年間指導計画に「話すこと・聞くこと」に関する指導事項「ウ 自分の立場をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと」を適切に位置付け、指導事項アやイと関連させて指導することが大切である。また、国語科で身に付けた力が他教科や領域、日常生活で活用されるように関連を図る必要がある。例えば、小単元「学級討論会をしよう」の学習の後に「修学旅行の成果」や「1学期のやり切り活動」等について討論会を行う活動を設定すること等が考えられる。

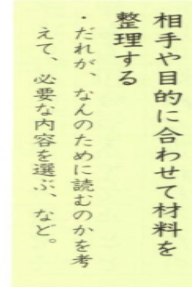
(2) 指導方法の工夫改善

話し合いの中で話し手の話し方の工夫に注意しながら内容を聞き取る指導の充実を！

- ・「話すこと・聞くこと」では、話し合いの中で、話し方の工夫に注意しながら話の内容を聞き取ることができるように指導することが大切である。例えば、「学級討論会をしよう」の単元で、話し方の工夫を評価の観点として示し、評価カードに記録できるようにして児童がそれらに注意して話したり聞いたりすることができるようにするとともに、記録をもとに自己評価や相互評価をすることで、話し手・聞き手の双方の立場で話し方の工夫についての理解を深めることができるようにする。……………例

目的に応じて必要な情報を取り出して整理し、自分の考えを明確にして書く指導の充実を！

- ・「書くこと」では、資料から伝えたい事実の中心となる部分を取り出し、適切な語句を用いて自分の考えを伝えるために必要な情報を整理して書く力を高める指導が大切である。例えば、「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」の単元では、「仮の要旨」をまとめた後に、それが説得力をもつための具体例や同じ考えの資料などを集める活動を通して、新聞、雑誌、インターネット等からさまざまな情報を取り出すようにする。さらに、「確定した要旨」をまとめた後に、構成を考え、文章を想定して例や引用などを具体的に想定して情報を選ぶことで、目的に応じて必要な情報を取り出して整理し、自分の考えを書くことができるようにする。



(教科書6年上p88)

文学的な文章の展開をとらえ、効果的な表現を味わう指導の充実を！

- ・「読むこと」では、文学的な文章の展開をとらえ、優れた叙述を味わいながら読むことができるようにする指導が大切である。そのためには、作者の表現の工夫をとらえながら読んだり、内容について想像を十分働かせて読むことが必要である。例えば、「読書の世界を深めよう」の単元で、想像豊かに「森へ」を読み取った後、児童一人一人が自分のテーマをもって本を選んで読み、読書発表会を開いて内容や表現のよさを紹介することなどが考えられる。その際、図書の分類や図書館の利用の仕方や関連図書の紹介等にも配慮したい。……………例

漢字の形、読み、意味の定着を図り、楽しく反復練習する学習活動の充実を！

- ・児童が興味をもって漢字を覚えたり、実際に漢字を使ったりする指導の充実が求められる。そのためには、漢字を取り立てた単元で漢字の形、読み、意味について「カンジー博士」コーナーのようなクイズ形式を取り入れたり、漢字が書けるようになるまで計画的に練習し、小テスト等を行って必ず見届けたりすることが大切である。また、「漢字の広場」のコーナーのように既習の漢字を使って短文を作ることを通して、文脈の中で実際に使うことができるようにすることが考えられる。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

児童が目的に応じて、主体的に学校図書館を活用する指導の充実を！

- ・児童が学校図書館を有効に活用できるようにするため、図書の分類や検索の仕方等の利用指導を各教科や総合的な学習の時間等にわたって繰り返し行うことが必要である。また、「読むこと」領域の指導計画の見直しを図り、実態に応じて国語科の指導計画に様々な言語活動(「読書郵便」「読書感想文」等の応募作品づくりの表現活動も含めて)を位置付けたり、他教科や他領域の指導計画に図書館を活用した調べ学習を意図的、計画的に位置付けたりするようにする。また、児童の作品を図書館や学級に掲示するなど、紹介や交流を位置付けて、児童が図書館を活用することのよさを実感できるようにする。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16～H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

例	平成20年度 授業改善推進プラン 第6学年 話し手と聞き手の相互評価を生かして討論を深める方法を身に付けた実践
例	平成19年度 授業改善推進プラン 第6学年 作者の他の作品を読むことを通して、作者のものの見方や考え方を読み深めた実践

関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P87意識調査結果を参照する。

小学校第6学年国語の授業において、児童が楽しいと感じるのはどんなときか。

- 第1位 教科書や資料の文章の内容に興味をもったとき
- 第2位 日常生活で使えるような漢字を覚えたとき